

### Ⅲ. 品目別の輸出先国・地域別の現状と展望

#### 1. 冷蔵牛肉

冷蔵牛肉はアジアでは香港向けの輸出が見られる。香港での需要としては一般的なステーキ用途以外にも、日本食ブームの影響からしゃぶしゃぶやすき焼きといった用途での需要拡大も見込まれている。

米国、カナダといった北米向けは、26%という高い関税等がネックとなっているが、富裕層を中心に和牛の消費は底堅い状況にある。

アラブ首長国連邦への輸出は 2008 年 2 月に解禁になっており、これからの需要の拡大が期待される。また、そのほかにも中国等には輸出解禁を現在要請中であり、今後の輸出の拡大が期待される。

図表 3－1 冷蔵牛肉の輸出先国・地域別の現状と展望

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	香港 （香港国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般的なステーキ用途以外にも、しゃぶしゃぶやすき焼きといった用途が見られ、需要は堅調である。</li> <li>現地通関の流れは円滑であり、障害にはなっていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本食ブームの影響から今後も堅調な需要が見込まれる。</li> </ul>
	アラブ首長国連邦 （ドバイ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年 2 月に輸出解禁となり、試験輸出が行われている。</li> <li>2009 年 4 月より中部空港発週 1 便の直行便が廃止となる点は逆風となる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010 年に成田ードバイ間の直行便（週 5 便）が就航する予定となり、今後の需要の拡大が期待される。</li> </ul>
北米	カナダ（トロント ピアソン国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>カナダ向けは 26%という高い関税がネックとなっているが、和牛の消費は底堅い状況にある。</li> <li>航空輸送費が米国向けよりも割高となっている点も逆風となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>食文化の点で米国と類似性が見られ、カナダを有望な輸出先に定めている輸出業者が見られる。</li> <li>航空輸送費は米国経由による削減可能性があり、需要拡大の余地が見られる。</li> </ul>
	米国（ジョン F. ケネディ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層を中心に和牛の消費は底堅い状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>景気低迷による需要減少が懸念される。</li> </ul>
	米国 （ロサンゼルス国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国産和牛の存在が日本産和牛の需要拡大にとってネックとなっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西海岸は日本食文化の浸透が進んでおり、今後も比較的安定した需要が見込まれる。</li> </ul>

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

## 2. 鶏卵

鶏卵はアジアでの輸出ニーズが高い傾向にある。特に、在留邦人や日本食を好む現地の人の生食としてのニーズが高く、今後もアジアを中心にした輸出が期待されている。

図表 3－2 鶏卵の輸出先国・地域別の現状と展望

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
ア ジ ア	香港 （香港国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出先国・地域の中で第1位の輸出実績を持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生食用途を中心に日本食ブームの影響から堅調な需要が見込まれる。</li> </ul>
	タイ （スワンナプーム国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>在留邦人や日本食を好む現地の人の生食としてのニーズが高い傾向にある。</li> <li>特に、すき焼きや卵かけご飯などの用途で主に食されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在留邦人を中心に堅調な実績が見込まれる。</li> </ul>
	シンガポール （チャンギ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のアジア諸国・地域と同様に、卵を生で食べることに警戒心を抱く在留邦人などのニーズが高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>航空輸出で鶏卵を輸出している業者の多くは、鮮度にこだわりを持って商品を展開している輸出者や量販店がほとんどである。</li> <li>こうした鮮度にこだわりを持っている輸出者数や実績は年々高まりを見せている。</li> </ul>

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

### 3. いちご

いちごはアジアへの輸出実績が最も高く、香港、台湾、シンガポール向けへの輸出が見られる。また、少量ながらロシア向けや米国の都市部（ニューヨーク等）へ向けての輸出が見られ始めている。日本産のいちごは韓国産と競合しているが、アジアを中心に日本産の商品の認知度がより一層高まることで今後の需要の拡大を見込んでいる。

図表3－3 いちごの輸出先国・地域別の現状と展望

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	台湾 （台湾桃園国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現地生産も一定量あり、輸入に大きな需要はない。</li> <li>・ 韓国産品との競合が見られ、価格競争の面では劣っている。</li> <li>・ 現地空港での検疫にかかる時間の長さが懸念材料となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要拡大のためには、品質の違いが少ない安価な韓国産品に対する差別的優位性の確保が望まれる。</li> </ul>
	香港（香港国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価格は高いが味がよく安心感があるため人気があり、家庭用・贈答用ともに使用される。</li> <li>・ 空港到着後の物流は滞りなく進められている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 価格と品質の違いが少ない韓国産の商品と競合が見られるものの、日本産の認知度の高まりにより需要の拡大が見込まれる。</li> </ul>
	タイ （スワンナプーム国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸出量は 1t に満たず、僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本産いちごの認知度が低いいため、輸出促進策の実施なくして需要拡大は見込みにくい。</li> </ul>
	シンガポール （チャンギ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸出量は 2t 余りあるが、航空輸出比率は 10%強にとどまる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸入業者からの価格引下げ圧力が強く、輸出拡大の余地は乏しい。</li> </ul>
欧州	ロシア （シェレメチェボ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 輸出が見られ始めたが、まだ輸出規模は小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中国産品が流入し、市場環境は厳しい。</li> </ul>
北米	米国 （ジョン F. ケネディ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まだ輸出規模は小さいが、輸出が開始された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空輸送時間が西海岸よりも長いいため、輸出意欲は西海岸よりも低い。</li> </ul>
	米国 （ロサンゼルス国際空港）		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 航空輸送時間が比較的短く、かつ比較的安価なため、需要が広がる可能性はある。</li> </ul>

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

#### 4. ぶどう

ぶどうの輸出先国・地域は、台湾を中心に香港、タイ、シンガポールなどアジアのほか、ロシアやアラブ首長国連邦となっている。現在、中国に対して輸出解禁を要請中であり、人口の多い中国での輸出解禁に伴う需要の拡大が期待される。

図表 3－4 ぶどうの輸出先国・地域別の現状と展望

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	台湾 （台湾桃園国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出先国・地域の中で第 1 位の輸出実績を持つ。航空輸出比率が高く、根強い需要を持つ。</li> <li>特に台湾で生産されていないピオーネの人気の高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピオーネ等、現地生産されていない品種を中心に今後も堅調な推移が見込まれる。</li> </ul>
	香港 （香港国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要は根強く、輸出先国・地域の中で第 2 位の輸出実績を持つ。</li> <li>空港内の物流環境に障害はないが、海上輸出比率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国産品の流入があり、価格引下げ圧力の高まりから、海上輸出が多い。</li> <li>しかし、富裕層向け市場で根強い需要があり、今後も安定した推移が見込まれる。</li> </ul>
	タイ （スワンナプーム国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出量は僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>障害は少ないが、消費者ニーズがなく、現状のままでは需要拡大は見込みにくい。</li> </ul>
	シンガポール （チャンギ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港内の物流環境に障害はないが、コスト重視で海上輸出比率が高い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層向けに需要拡大の可能性はある。</li> </ul>
	アラブ首長国連邦 （ドバイ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易統計での輸出実績には現れておらず、輸出量は僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層を狙いたいと考えていた輸出業者等が見られたが、金融危機以後の経済環境の悪化を理由に、経済が好転するまでは輸出を断念する傾向にある。</li> </ul>
欧州	ロシア （シェレメチェボ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は約 3t と少量にとどまっている。</li> <li>安価な中国産品が市場に出回っており、競争環境は厳しい状況にある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層を狙いたいと考えていた輸出業者等が見られたが、金融危機以後の経済環境の悪化を理由に、経済が好転するまでは輸出を断念する傾向にある。</li> </ul>

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

## 5. もも

ももは香港や台湾などの中華圏では贈答用として日本産果実の中で最も人気が高い商品である。中国への輸出が解禁されれば更なる需要が見込める。

図表 3－5 ぶどうの輸出先国・地域別の現状と展望

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	台湾 （台湾桃園国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出先国・地域の中で第1位の輸出実績を持つ。航空輸出比率は高く、根強い需要を持つ。</li> <li>モモシンクイガの発生を機に2006年に輸入規制が行われ、輸血量の大幅減が生じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中国産品の輸入見通しは立っており、今後も輸血量は堅調な動きが期待される。</li> <li>ただし、韓国産品との競合が進んでおり、差別化した展開が求められる。</li> </ul>
	香港 （香港国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出先国・地域の中で第2位の輸出実績を持つが、航空輸血量は10t強にとどまる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層向け市場は根強い需要があり、今後も安定した推移が見込まれる。</li> </ul>
	タイ （スワンナプーム国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>バンコク在住の邦人を中心に需要は安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>在留邦人を中心とする需要は根強く、大きな拡大要素はないが、今後も堅調に推移するものと見込まれる。</li> </ul>
	シンガポール （チャンギ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008年の輸血量は約20tと、台湾、香港に次ぐ量であるが、航空輸血量は1tに満たない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層向けに需要拡大の可能性が見られる。</li> </ul>
	インド （インディラ ガンジー国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易統計での輸出実績には現れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済成長を背景に関心を持つ輸出業者は存在するが、輸入制度の不透明さ等を理由に輸出意欲は高まっていない。</li> </ul>
	アラブ首長国連邦 （ドバイ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出業者からは、現地での人気はまずまずあると見られている。</li> <li>商品特性と輸送時間の長さに伴い、ロス率が高くなる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地需要は根強いと見られるが、絶対量が大きく伸びる可能性は低いと見る声もある。</li> </ul>
北米	米国（ジョン F. ケネディ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易統計での輸出実績には現れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>注目している生産者団体、輸出業者はほとんど存在しない。</li> <li>経済環境の悪化の影響もあり、市場任せでは輸出拡大は進まないと見られる。</li> </ul>
	米国 （ロサンゼルス国際空港）		

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

## 6. ぶり

ぶりは食肉離れや健康志向から魚を食べる機会が増加している欧州向けや、高級日本料理店や日本人向けスーパーへの販路が安定している北米向けの輸出が見られる。また、アジアにおいても寿司ネタや刺身向けを中心に需要の高まりが見られるほか、アラブ首長国連邦（ドバイ）などの経済成長に期待のかかる地域への輸出を検討している業者も見られる。

図表 3－6 ぶりの輸出先国・地域別の現状と展望

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	中国 （北京首都国際空港）	高級日本料理店を中心に需要がみられる。	日本料理店をはじめ潜在需要が高く注目されている。
	中国 （上海浦東国際空港）		
	香港 （香港国際空港）	高級日本料理店や日本人向けスーパーで一定の需要がある。	日本食ブームの影響の恩恵を受けて需要は安定している。
欧州	英国 （ヒースロー空港）	日本食レストランを中心に安定した需要を誇っている。	食肉離れや健康志向から魚を食べる機会が増加しており、欧州は空前の白身魚ブームである。よって需要は堅調な推移が見込まれる。
北米	カナダ （トロント ピアソン国際空港）	輸出先国・地域で 2 位の輸出実績を持つ。	富裕層を中心とした消費者層を中心に一定の需要が見込まれる。
	米国（ジョン F. ケネディ国際空港）		
	米国 （ロサンゼルス国際空港）		

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

## 7. 錦鯉

錦鯉は、温度管理の面での物流上の懸念材料はないが、輸送時間が 2 日程度になると錦鯉の死亡率が高まることから、日本から遠距離になるほど直行便があることが重要な条件となり、迅速な輸送が望まれる。

錦鯉はオランダやドイツなどのヨーロッパをはじめとした、輸出の歴史が長い国に対しては安定した輸出が続くものと見られる。今後は東南アジアで主要顧客層となる富裕層の増加に対する期待が見られるほか、輸出実績が安定している米国において西・東海岸以外の中央地域への輸出が期待されている。また、南アフリカへは輸出実績が少ないが、富裕層の存在から今後の需要拡大が期待されている。

図表 3－7 錦鯉の輸出先国・地域別の現状と展望①

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	台湾 （台湾桃園国際空港）	・ 2008 年の輸出量は 2t 弱にとどまり、僅少レベルにある。	・ 富裕層への需要拡大が期待される。
	香港 （香港国際空港）	・ アジア地域で最大の輸出先となっており、市場が確立している。	・ 富裕層への需要拡大が期待される。
	タイ （スワンナプーム国際空港）	・ 2008 年の輸出量は 7t 余りとなっており、比較的需要は高いレベルにある。	・ 経済発展に伴い、富裕層への需要拡大が期待されている。
	マレーシア （クアラルンプール国際空港）	・ 2008 年の輸出量は 12t 余りとなっており、富裕層を中心に比較的 need は高いレベルにある。	・ 経済発展に伴い、さらに富裕層への need 拡大が期待されている。
	インドネシア（スカルノ ハッタ国際空港）	・ 2008 年の輸出量は 4t 弱にとどまっている。	・ 経済発展に伴い、富裕層への need 拡大が期待されている。
欧州	ノルウェー （オスロ空港）	・ 2008 年の輸出量は 1t に満たず、僅少レベルにある。 ・ 日本からの直行便がなく、輸送時間の長さが錦鯉に与える影響もあり、需要規模は小さい。	・ 特に need 拡大に向かう動きは見られない。
	デンマーク（コペンハーゲン国際空港）	・ 2008 年の輸出量は 1t 余りにとどまり、僅少レベルにある。	・ 特に need 拡大に向う動きは見られない。
	英国 （ヒースロー空港）	・ 2008 年貿易統計では、輸出量は 20t 強と高いレベルにある。	・ 特に need 拡大に向う動きは見られない。
	オランダ （スキポール空港）	・ 2008 年貿易統計では、数量ベースで世界最大の輸出先となっており、需要は安定している。	・ 既に need が出来上がっているため、拡大の余地が大きいとは考えられていないが、今後も安定した need が期待される。

図表 3－7 錦鯉の輸出先国・地域別の現状と展望②

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
欧州	ベルギー （ブリュッセル国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は 5t 弱と近隣国と比較して規模は小さい。</li> <li>日本からベルギーへの直行便はないが、近隣国の国際空港に対する日本からの直行便があるため、他国経由の需要があると見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に需要拡大に向う動きは見られない。</li> </ul>
	フランス （シャルル ド ゴール国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は 1t に満たず、僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本文化に対する関心が高い国であるため、潜在需要は高いと見られるが、現段階で需要拡大に向う動きはない。</li> </ul>
	ドイツ （フランクフルト国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年貿易統計では、金額ベースで世界最大の輸出先となっており、需要は安定している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既に需要が出来上がっているため、拡大の余地が大きいとは考えられていないが、今後も安定した需要が期待される。</li> </ul>
	スペイン （バラハス国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は 1t 余りととどまり、僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に需要拡大に向かう動きは見られない。</li> </ul>
	イタリア（マルペンサ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は 1t にとどまり、僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に需要拡大に向う動きは見られない。</li> </ul>
	オーストリア （ウィーン国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は 1t に満たず、僅少レベルにある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に需要拡大に向う動きは見られない。</li> </ul>
	チェコ （プラハ ルズィニエ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2008 年の輸出量は 1t に満たず、僅少レベルにある。</li> <li>日本からの直行便もなく、輸送時間の長さが錦鯉に与える影響もあり、需要規模は小さい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特に需要拡大に向う動きは見られない。</li> </ul>



図表 3－7 錦鯉の輸出先国・地域別の現状と展望③

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
北 米	米国（ジョン F. ケネディ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>米国では錦鯉を愛でる文化的土壌が育っており、特に西海岸、東海岸で需要が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>西海岸と東海岸については、安定需要が見込まれるが、需要拡大を図るには他のエリアでの需要開拓が必要となる。</li> </ul>
	米国（ロサンゼルス国際空港）		
他	南アフリカ共和国（ヨハネスブルグ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>現地の需要は少なからずあるが、日本からの直行便がなく、輸送時間の長い点が懸念材料となっている。</li> <li>輸出者から、輸送時間の長さを理由に半数の錦鯉が死亡したという例も聞かれた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生きたまま安全に錦鯉を輸送するための環境が整備された際には、需要拡大が見込まれるが、現段階では特に需要拡大に向かう動きは見られない。</li> </ul>

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）

## 8. 切り花

アジアでは日本のブライダル雑誌が流通している影響もあり、日本でしか手に入らない種類の切り花の輸出が見られる。また、ロシアは国際婦人デーに男性が女性に花を送る習慣があることや、気候により花の生産が困難なため、輸出先国として有望視されている。ヨーロッパは現地で数多くの花が生産されているものの、日本固有の切り花の輸出が期待されている。

図表 3－8 切り花の輸出先国・地域別の現状と展望①

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
アジア	中国 （北京首都国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーネーションの輸出が見られるが、輸出量は僅少にとどまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーネーションについては、需要拡大につながる動向は特に見当たらない。</li> <li>グロリオサについては、現段階では上海への輸出のみであるが、北京エリアにおいても潜在需要はあると見られ、今後の輸出拡大が見込まれる。</li> </ul>
	中国 （上海浦東国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーネーションの輸出が見られるが、輸出量は僅少にとどまっている。</li> <li>貿易統計の実績には反映されていないが、2008 年にはグロリオサが輸出された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーネーションについては、需要拡大につながる動向は特に見当たらない。</li> <li>グロリオサについては、今後の輸出拡大が見込まれる。</li> </ul>
	台湾 （台湾桃園国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>花き市場を通じて購入した切り花を輸出業者が輸出していると見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>需要拡大につながる動向は特に見当たらない。</li> </ul>
	香港 （香港国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>らんの最大の輸出地域となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>富裕層向けに根強い需要があり、今後も安定した輸出が見込まれる。</li> </ul>
	タイ （スワンナプーム国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>貿易統計での輸出実績には現れていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>輸出実績のある生産者団体、輸出業者、さらにはタイに注目している業者等を確認することができなかった。</li> </ul>
	アラブ首長国連邦 （ドバイ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>らんの輸出が見られるが、輸出量は僅少にとどまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010 年より成田ードバイの直行便（週 5 便）が就航される計画であり、今後の需要の拡大が期待される。</li> </ul>

図表３－８ 切り花の輸出先国・地域別の現状と展望②

輸出先国・地域（空港名）		現状	展望
欧州	英国 （ヒースロー空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ らんの輸出が見られるが、輸出量は僅少にとどまる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 需要拡大につながる動向は特に見当たらない。</li> </ul>
	オランダ （スキポール空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ りんどうの輸出が定着しており、花きの最大の輸出先国となっている。</li> <li>・ オランダを起点にEU市場に出荷されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 物流が速やかで貿易の仕組みも定着しており、今後もオランダ経由でのEU市場の開拓が見込まれる。</li> <li>・ 一方、ユーロ安と金融危機の影響による需要減の懸念も見られる。</li> </ul>
	ロシア （シェレメチェボ国際空港）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 極東ロシアへのチューリップの輸出が開始された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気候の関係上、花の生産が困難なことから、現地の切り花に対する需要は底堅い。</li> <li>・ 今後の需要の拡大が期待される。</li> </ul>

（出典：富士経済がヒアリング調査をもとに作成）